

令和5年度 第12回山上憶良短歌賞受賞作品一覧

小学生の部

憶良賞

入選

入選

入選

入選

入選

入選

佳作

佳作

佳作

佳作

佳作

佳作

佳作

佳作

佳作

佳作

佳作

佳作

佳作

佳作

佳作

佳作

佳作

佳作

佳作

佳作

佳作

佳作

佳作

佳作

佳作

佳作

佳作

佳作

佳作

佳作

佳作

佳作

佳作

佳作

佳作

佳作

佳作

佳作

佳作

佳作

佳作

佳作

佳作

佳作

佳作

佳作

佳作

佳作

佳作

佳作

佳作

佳作

佳作

佳作

佳作

佳作

佳作

佳作

佳作

佳作

佳作

佳作

佳作

佳作

佳作

佳作

佳作

佳作

佳作

佳作

佳作

佳作

佳作

佳作

（敬称略）

鳥取県	倉吉市立北谷小学校	6年	米原 ひなた
鳥取県	倉吉市立西郷小学校	6年	中田 寧音
鳥取県	倉吉市立社小学校	3年	井上 晴貴
鳥取県	倉吉市立上灘小学校	6年	藤田 孝行
広島県	廿日市市立大野東小学校	4年	袋瀬 ほのみ
鹿児島県	鹿屋市立笠野原小学校	6年	金沢 幸一郎
鹿児島県	鹿屋市立笠野原小学校	5年	濱田 莉子
鹿児島県	鹿屋市立笠野原小学校	6年	嶺山 愛佳
鳥取県	倉吉市立社小学校	5年	長谷川 海斗
鳥取県	倉吉市立北谷小学校	6年	石井 琥太郎
鳥取県	倉吉市立社小学校	3年	北中 美月
鳥取県	倉吉市立西郷小学校	6年	金田 太一
鳥取県	倉吉市立西郷小学校	6年	丸橋 璃子
鳥取県	倉吉市立社小学校	3年	岡本 未来
鳥取県	倉吉市立関金小学校	6年	本谷 安弥
茨城県	日立市立日高小学校	6年	加古 瑠莉那

鳥取県	鳥取大学附属中学校	2年	清水 麻希
鳥取県	鳥取大学附属中学校	2年	安田 雄貴
鳥取県	湯梨浜町立湯梨浜中学校	1年	高橋 新大
東京都	学習院女子中等科	1年	堀岡 美帆
東京都	学習院女子中等科	3年	芝 優夏
静岡県	静岡市立籠上中学校	1年	栗田 多花良
鳥取県	倉吉市立河北中学校	1年	石原 聡一郎
宮城県	岩沼市立岩沼中学校	3年	後藤 嘉杏
東京都	学習院女子中等科	3年	高垣 ねね
東京都	学習院女子中等科	1年	宮越 彩
東京都	学習院女子中等科	2年	松澤 希和
鳥取県	倉吉市立東中学校	3年	河本 遥翔
鳥取県	倉吉市立東中学校	2年	田中 友梨
鳥取県	鳥取大学附属中学校	2年	宮城 華子
鳥取県	湯梨浜町立湯梨浜中学校	2年	岡本 侑理子
東京都	学習院女子中等科	1年	高野 真優

新潟県	鎌形学園東京学館新潟高等学校	3年	平松 穂花
鳥取県	湯梨浜学園高等学校	1年	岩田 侃大
鳥取県	鳥取県立鳥取中央育英高等学校	1年	堀本 泰治
新潟県	鎌形学園東京学館新潟高等学校	3年	石川 琉衣
新潟県	鎌形学園東京学館新潟高等学校	3年	山田 義乃
埼玉県	星野高等学校	1年	正木 僚
鳥取県	松柏学院倉吉北高等学校	2年	原 杏那
埼玉県	星野高等学校	1年	塚田 紗菜
神奈川県	神奈川県立光陵高等学校	1年	上田 朱雀
新潟県	鎌形学園東京学館新潟高等学校	3年	本間 伊織
新潟県	鎌形学園東京学館新潟高等学校	1年	笹川 恵太
鳥取県	松柏学院倉吉北高等学校	2年	中村 蒼
鳥取県	湯梨浜学園高等学校	1年	河野 向日葵
新潟県	鎌形学園東京学館新潟高等学校	3年	今泉 英也
新潟県	鎌形学園東京学館新潟高等学校	3年	佐藤 月音
新潟県	鎌形学園東京学館新潟高等学校	1年	赤塚 鎧哉

愛媛県新居浜市	吉川 節子
鳥取県倉吉市	岸本 栞
茨城県土浦市	貝塚 妙子
大阪府吹田市	住吉 美和子
和歌山県和歌山市	中尾 加代
三重県四日市市	川瀬 和代
岡山県岡山市	岩崎 純史
東京都豊島区	梶浦 公靖
福岡県福岡市	市川 登美栄
茨城県ひたちなか市	小田倉 量平
鳥取県鳥取市	平尾 潤子
鳥取県倉吉市	小谷 貞代
鳥取県鳥取市	坂本 恵子
滋賀県栗東市	澤 絢子
福井県福井市	中嶋 恭子
滋賀県草津市	藤波 舞

父さんの待ち受け画面に七才の私は今でもほほえんでいる
スィーツもカーネーションもないけれど今日は一日ゆつくりしてね
けんか中親父に連れられ飯屋行く初めて話す男の本音
金曜も夜勤シフトの母さんはバスデーケーキラツプして行く
結婚をした兄ちゃんは洗濯のたみ方迄変化するんだ
初めてすまんと言われたゆうべ小さく見えた父の背中が
傘閉じて車に乗るとかけられる乾いたタオルと「おかえり」の声
父倒れ不安が積もる家の中四人揃っていちばん家族

小四の廊下に立たされ泣いた日の僕より泣いてた母さんの顔
喉の奥五文字が出ない思春期の母の背見つめる僕が嫌いだ
姉さんの結婚式の翌朝の静けさ秋を加速させてる
妹に背を越されてから親戚が間違え始めるどちらが姉か
朝六時朝食よりもへアセット母控えめに「好きな子いるの？」
快く応援父母がしてくれた志望理由の清書始める
稲刈りの九月は父の作業着の青汗染みて濃い色になる
母さんの迎えの車待つ駅は無人の改札鈴虫が鳴く

鎌形学園東京学館新潟高等学校（新潟県）

わが膝を卒寿の夫に貸しやりて点耳薬さすこの世の岸边
「ならない」と何度も言ったが母を追いおんなじ色の聴診器持つ
こんなにも綺麗な睫毛だったのね柩にしずかなり末の弟
人前でチャンづけで呼ぶくせやめて母さん俺は五十のオヤジ
食べ終えた魚の皿に茶を注ぎ父は昭和を丸ごと飲んだ
のびやかにみどり児のごと欠伸する母を見てをり皆病室に
「赤ちゃんを授かれなくてごめんな」と夫婦で泣いた夫婦になった
ガザの母吾子の手足に名を識す四散すれども慥かな筆蹟
わが口に触れてその指軽く振りあしたねと出る夫の病室
いくたびも撫でてくれたる母の手の瘦せし窪みに錠剤を乗す
ゆく秋のひかりの中で囲碁をうつ父の胡坐と夫の正座
迷うとき歌二首並べ「どっち好き？」夫を選者にわたしは投稿
「マンガーがうまかつたけえ」とひと言のみ南方の戦を父が呟く
全盲のパラマラソンをめざす母に息子は日々伴走父の遺志継ぐ
凍てる日の父の脱ぎたる手袋は働く厚き手の形して
姉の居間背に服着てるどの椅子も老いの時間はゆつくり流る